

アクティブ・ラーニングに関する参考資料 Ver. 4.2

高等教育開発センターでは、アクティブ・ラーニングの視点にもとづいた授業を推進するとともに、教育改善を目的とした教学 IR の観点からアクティブ・ラーニングの取組状況を把握しやすくするために、アクティブ・ラーニングを 4 タイプに分類しています。2016 年 8 月に作成した 4 タイプの例は、2017 年 3 月の全学教員対象の調査結果にもとに改訂し、その後も逐次改訂しています (<http://www.he.oita-u.ac.jp/activelearning/>)。



■ アクティブ・ラーニングの視点にもとづいた授業

- 読解、作文、発表、討論、問題解決、創造などの学生の活動への関与があり、それらで生じる認知プロセスの外化を伴っている授業
 - 学生が自ら目標を定め、計画して学修に取り組み、省察して次の学びにつなげていく過程を実現する「主体的な学び」
 - 他者との協働や外界との相互作用を通じて考えを発展させる「対話的な学び」
 - 学んだ知識を活かして問題発見・解決や創造を行う「深い学び」

タイプ	タイプの説明	方策の例	具体例	備考
(A) 知識の定着・確認	知識の定着およびそれらを確認する、主に個人の学修	レスポンスアナライザー	クリッカー	
		小テスト、演習、実技	中間テスト、口頭試問、穴埋め資料、質疑応答、作問	
		知識の定着・確認を図るレポート・ライティング	ミニッツペーパー	表現志向のもの(B)
		時間外学修	予習(反転学修を含む)、復習、宿題	他者との協働や相互作用のあるものは(B)
		体験、実験、観察	手順通りの実験・実習、体験活動、見学、傍聴、実体験を伴わない学生の過去の体験との紐付け	
(B) 意見の表現・交換	知識や意見等を表現し、発表したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学修	調査	調べ学修(文献、インターネット)、多読	
		発問	指名発問、リレー発問	
		発表	プレゼンテーション、パネルディスカッション、カンファレンス	
		話し合い	ディスカッション(ガイド付き・フリー)、ブレインストーミング、ラウンドロビン、バズグループ、シンクペアシェア、ワールドカフェ、ディベート、マイクロディベート	
		教え合い・学び合い	ジグソー、知識構成型ジグソー法、LTD(Learning Through Discussion)、相互教授(ピアインストラクション)、ラーニングセル、リーディングサークル、カタリ場	問題解決が含まれる場合は(C)も参照
		図解	コンセプトマップ、KJ法A型図解化、マインドマップ	
		文章作成	学びの省察(ポートフォリオを含む)、表現志向のレポート・ライティング、読書感想文、看图作文、共同的執筆	知識の定着・確認を図るものは(A)
(C) 応用志向	知識やスキルを現実で起こりそうな状況に応用したり、問題発見・解決したりする、主に教室等内での学修	相互評価(ピアレビュー)	ピアレスポンス	
		問題基盤学修[PBL](Problem-Based)	チュートリアル、四面会議システム	
		シミュレーション、ゲーム	危険予知訓練(KYT)、バーンガ	シナリオベース
		ロールプレイ、演劇	模擬授業	
		仮説の検証や探索を伴う実験		
		ケースメソッド	シナリオ・事例研究、事例設定型教授(Case-Based)	学修者主体のもの
(D) 知識の活用・創造	知識やスキルを現場等で活用し省察する学修や、創造的な学修	チーム基盤型学修[TBL](Team-Based)		
		プロジェクト学修[PBL](Project-Based)	ハッカソン(アイディアソンを含む)	
		実習	教育実習、臨地実習、海外実習、現地実習	
		インターンシップ		省察を伴う
		サービスラーニング	評価を伴うボランティア活動	省察を伴う
		フィールドワーク	聞き取り調査(インタビュー)、アンケート調査	受動的な見学や体験活動は(A)
		観測		
		創成学修	ものづくり実習、動画作成	
		芸術創作		
設計、デザイン、意匠				
研究、論文作成	卒業論文、修士論文			

注 1) 1 教育活動に複数のタイプや方策が組み合わされて用いられることがある。また、1 方策を複数のタイプに分類できる場合がある。

注 2) 同じ教育活動であっても、実施の目的や意図、文脈によって異なるタイプに分類されることがある。